

# 学校図書館活用推進事業実践報告

新潟市立両川中学校

# 令和4年度 学校図書館活用推進事業実践報告

新潟市立両川中学校

生徒数	54名
学級数	学級数4（内 特別支援学級1〈今年度より〉）
蔵書数	8,140冊（昨年度末）
貸出冊数	1,312冊 一人平均25冊（昨年度末）

## 1 目標

- 本に親しみ、読書を通して豊かな心を育んでいこうとする生徒を育てる。
- 目的に応じて適切な資料を収集・活用し、課題解決を図れるような情報活用能力を育成する。

## 2 読書センターとしての取組

### (1) 図書委員会による本のリクエストアンケート

- ・タブレット（グーグルクラスルーム）を活用し全校生徒にアンケートを配信。
- ・好きなジャンルや入れてほしい本などを募った。
- ・回答・集計もタブレットを活用。

### (2) 図書委員会新聞「ライブラリー」発行

- ・図書委員お薦めの本を紹介。

### (3) 図書委員会 BOOK WEEK 企画（6月、11月）

#### <6月>

- ・図書委員のお薦めの本を紹介。
- ・期間中は1回に借りられる本の冊数を増やし（5冊）、貸出期間も2週間に延長。
- ・期間中本を借りた人には、図書委員が考えた図書館クイズに挑戦し、正解すると特製しおりがもらえる特典が付く。



#### <11月>

- ・図書委員はポスターを作ったり、各クラスで呼びかけたりしてPR。
- ・1年生が授業で作成した本の紹介POPと本を館内に展示。
- ・期間中5冊借りた人には、図書館に用意された材料を自由に使って、自分でオリジナルし

おりが作れる特典が付く。



#### (4) 長期休業前特別貸出

- ・ 図書委員はポスターを作って PR。
- ・ 期間中は 1 回に借りられる本の冊数を増やした。
- ・ 国語の授業を図書館で行い、読書を促した。



#### (5) 館外に本の展示コーナーを設置

- ・ 生徒がよく目にする場所（生徒玄関脇、階段の踊り場）に、展示コーナーを設置。
- ・ 話題の本や季節の本、新聞（抜粋）、各種指導部の企画に対応した関連図書などを展示。
- ・ 1 年生が授業で作った本の紹介 POP と本も展示。



#### (6) 館内の奥に（書架を衝立代わりに）集中して読書したい人向けのスペースを確保

- ・ 集中して読書したい等、多様な考えをもつ利用者を想定した居場所作り。
- ・ 地域教育コーディネーター手作りのぬいぐるみをソファに配置。（安らげる場所作り）

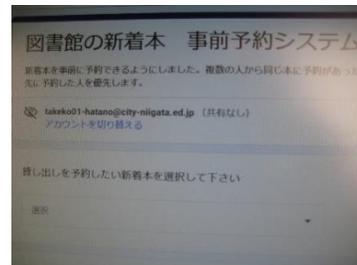


- (7) 多読賞表彰、個人の読書記録・卒業生に図書館オリジナルしおりプレゼント（年度末）



- (8) タブレットを活用した新刊紹介と予約

- ・図書館から全校生徒へ、グーグルクラスルームで本の新着情報を配信。
- ・新着情報はストリームに保存し、いつでも閲覧可能。
- ・生徒は予約フォームを活用し、いつでもどこからでも新着本の予約が可能。



※昨年度から始めたこの方法は、12月の全市一斉図書館システム導入により役割を終了。

### 3 学習センターとしての取組

- (1) 資料の整備・充実

- ・教科担任と連携し、授業に必要な本、パンフレット等を整備。

- (2) 公共図書館との連携による資料提供

- ・公共図書館の本を使った授業

学年	教科	単元	活用資料
1	国語	ダイコンは大きな根？	公共図書館本 20冊
1	社会	ヨーロッパ州国同士の統合による変化	公共図書館本 30冊 自校図書 6冊
1	家庭科	SDGsを考えよう	公共図書館本 30冊 自校図書 20冊
2	総合	修学旅行でSDGsを考える	公共図書館本 28冊 自校図書 20冊
3	国語	論語	公共図書館本 15冊 自校図書 5冊
3	家庭科	保育「3歳児が読む絵本」	公共図書館本 50冊 自校図書 10冊
3	社会	高度成長期の人々の暮らし	公共図書館本 50冊 自校図書 12冊
全学年	保健室	歯と口の健康習慣	公共図書館本 10冊 自校図書 5冊

- (3) 本を探しやすい図書館にするためのレイアウトの工夫

- ・館内配置図、分類番号表示、図書の見出しなどを掲示。
- ・特設コーナー（両中コーナー、修学旅行関係コーナー、SDGsコーナー、新聞コーナー、戦争を考えるコーナー、入試情報コーナー、国語教科書掲載図書コーナーなど）を設置。





※紹介図書の中には、QR コードを添えて、関連情報をたどれるようにしたものもある。

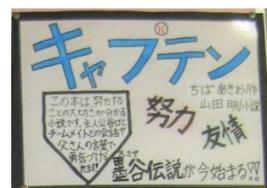
#### (4) 学習成果物の保管・活用

- ・お薦め本カード…過去に生徒が授業で作ったA4サイズの作品を保管。誰でも閲覧可能で生徒は本選びの参考になっている。
- ・本のPOP…過去に生徒が作ったものを展示。それを参考に今年度1年生が新たに作成。  
今年度1年生が作ったものは、館外での本紹介や、BOOK WEEK 期間の館内展示で活用。小学校にも貸し出した。
- ・生徒会誌、卒業文集、ミュージカル台本…両中コーナーに展示。



#### (5) 授業での活用実践

- ・〈国語〉1年「ダイコンは大きな根？」
  - ①(教材文の読み取りを終えた後) 図書資料やインターネットを用いて、ダイコン以外の植物の秘密について調べる。
  - ②調べたことを、教材文の文章構成にならって、図表や具体例を交えながら人にわかりやすく説明する。
- ・〈国語〉1年「ポップをつくろう」
  - ①中学校に入学してから読んだ図書館の本の中から、友達に紹介する本を決める。
  - ②図書資料を用いて、ポップとはどういうものか理解する。
  - ③紹介に必要な情報を整理し、ポップを作成する。
  - ④作ったポップを相互評価した後、振り返りを行う。  
作品は図書館で管理。館外で本と一緒に展示したり、BOOK WEEK 期間中に館内で本紹介に活用したり、小学校に貸し出したりした。次年度のポップ作りの参考作品としても活用する予定。



- ・〈家庭科〉3年「保育～3歳児が読む絵本」

自分が親になったときに、子どもに読んであげたい絵本5冊を選び、その絵本のよさをまとめる。



・〈家庭科〉1年「SDG sを考えよう」

SDG s について書いた図書資料を読み、持続可能な社会実現のためにできることを考える



・〈社会〉1年「ヨーロッパ州国同士の統合による変化」

図書資料を用いてEU加盟国の特徴（貿易額、言語、国土面積、宗教、民族、通貨）を調べることを通して、それらの国々がなぜEUという組織を作ってまとまろうとしたのかという学習課題をもつ。

#### 4 情報センターとしての取組

##### (1) 1年生を対象に、学校図書館活用についてのオリエンテーションを実施

①館内配置、本の分類と配架、本の借り方・返し方、マナーレファレンスサービスについて、タブレットに送信した資料を基に説明。

②説明後は、復習を兼ねたクイズを実施。

③その後、実際に本を借りる手続を行った。



##### (2) 調べ学習の手順等を示した掲示物の作成

- ・調べ学習の手順と思考ツールを示した掲示物、図書館以外の情報源を示した掲示物を作成。本の探し方を紹介した掲示物（「学校図書館ニュース」）と併せて掲示。
- ・調べ学習の手順に対応したワークシートを現在作成中。



### (3) 図書館だよりの発行

- ・新刊情報の他、調べ学習に役立つヒントなども掲載。

例：紙の本と電子書籍それぞれの特性

公共図書館の電子書籍のPR



### (4) 情報活用能力指導体系表の作成

- ・3年間を見通し、課題の設定、情報の収集、情報の整理・分析、まとめ・伝え合いの段階において指導する内容を整理。

## 5 小学校との連携

### (1) 調べ学習の方法を示した掲示物の作成

- ・調べ学習の方法について小・中学校で確認し合い、それぞれ掲示物を作成して図書館に掲示。

### (2) 小学校との情報交換

- ・図書館だよりの交換。
- ・国語の授業で作ったPOPを小学校に貸出。
- ・家庭科の授業で生徒が選んだ絵本に関する情報を提供。

## 6 成果と課題（成果は○課題は●）

- タブレット（グーグルクラスルーム）を活用してアンケートを取ったり新刊図書の情報提供と予約ができるようにしたりしたことで、図書館と利用者相互の情報交換がスムーズに行えるようになった。（※新刊情報と予約については、12月から新しい図書館システムに移行）
- 図書委員会企画BOOK WEEKでは、図書委員によるPRやしおりの特典、授業で1年生が作成したPOPの展示を通して、本に対する生徒の関心を高め、来館者および貸出数の増加につなげることができた。
- 生徒玄関や階段の踊り場に本の紹介コーナーを設けたことで、普段図書館を活用しない生徒にも、いろいろな分野の本に関心をもってもらうことができた。
- 館内奥に設けた、集中して読書したい人向けのスペース（ソファ）は、落ち着いて読書できる場としてよく利用されている。
- 教科担任や公共図書館と連携し、授業で必要な資料を提供することができた。
- 学習成果物を収集・展示することで、他の生徒の学習等に役立てることができた。
- 教科・領域での図書館活用、情報活用能力指導体系表の作成、小・中連携による掲示物の作成（「調べ学習の方法」）を通して、情報活用能力育成への意識が高まりつつある。今後、さらに図書館を始めとして様々な手段を用いて探求学習を推進していく中で、小・中9年間を見通した情報活用能力指導体系表へと改良するとともに、小学校と連携して、情報活用能力育成のための環境整備（掲示物やワークシート、資料の充実）を進めていく必要がある。